

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 10月7日 9:08AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 40,000～49,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 40,000～47,200 ドル
(S&P500) 5000～6800

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 21,000～25,200
(ナスダック総合) 19,000～23,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～154.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

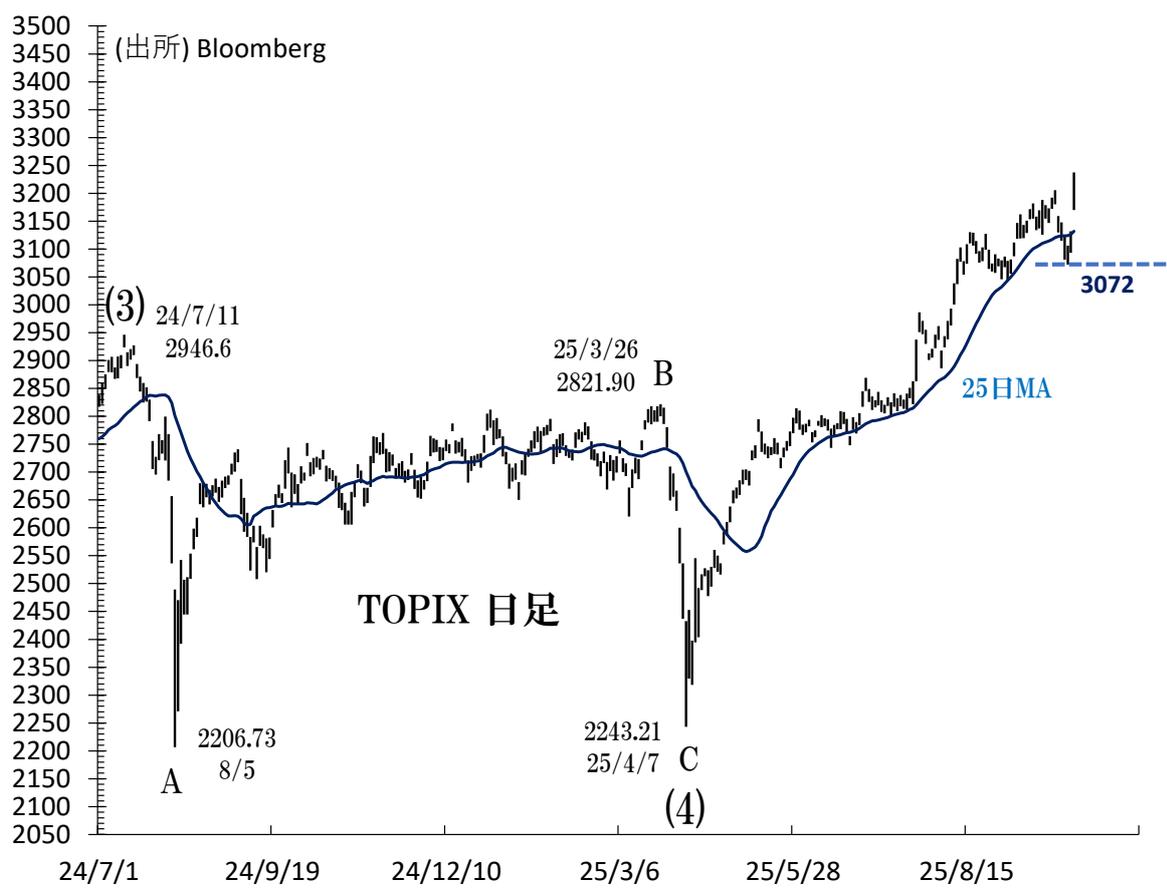
今年 4 月 7 日安値(30,792.74 円)からインターミディエイト級第(5)波の上昇にあり、この第(5)波完成を以て、コロナショック底(16,358.19 円、20 年 3 月)からのプライマリー第③波は完成します。

「9～10 月に日経平均が 4 万 5000 円～4 万 9000 円」という筆者の予想は十分に達成されました。波動構成上からも、**強気相場は最終局面**にあります。

今週は 4 月 7 日週から 26 週目(絶対期日迎え)です。過去を振り返ると、週次トレンドは半年(26 週)程度で一巡することが珍しくなく、ここからすると、**第③波天井は 10 月中旬に付けるかもしれません。**

10 月 6 日、日経平均は 2175 円高と急伸し最高値を更新。この日は一時 48,150 円と初めて 4 万 8000 円を付ける場面がありました。

これにより、21 年 2 月高値から引かれた上昇チャネルライン水準を、[算術尺度・46,711 円]・[対数尺度・47,660 円]の両方を一気に上抜きました。この動きは、強気相場の最後を飾るスローオーバー(throw-over)になり得るでしょう。

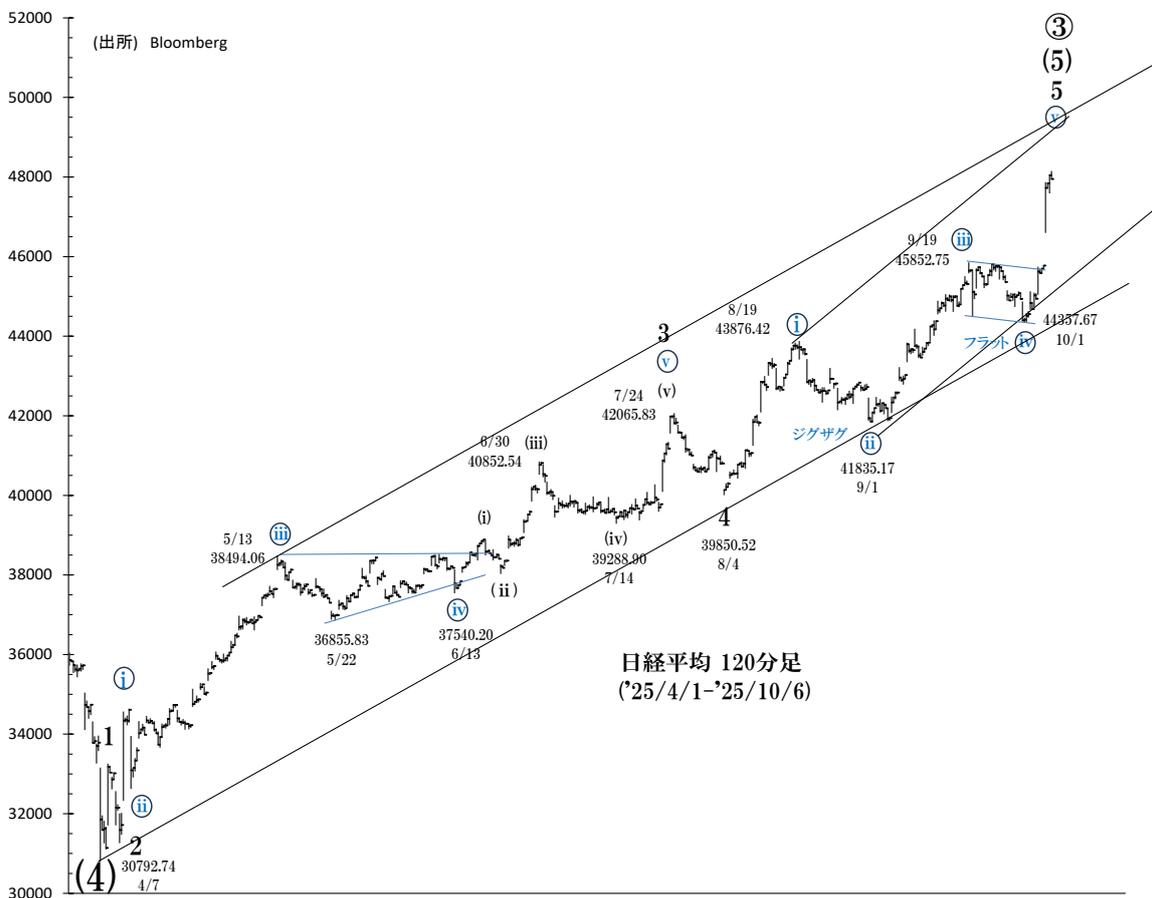
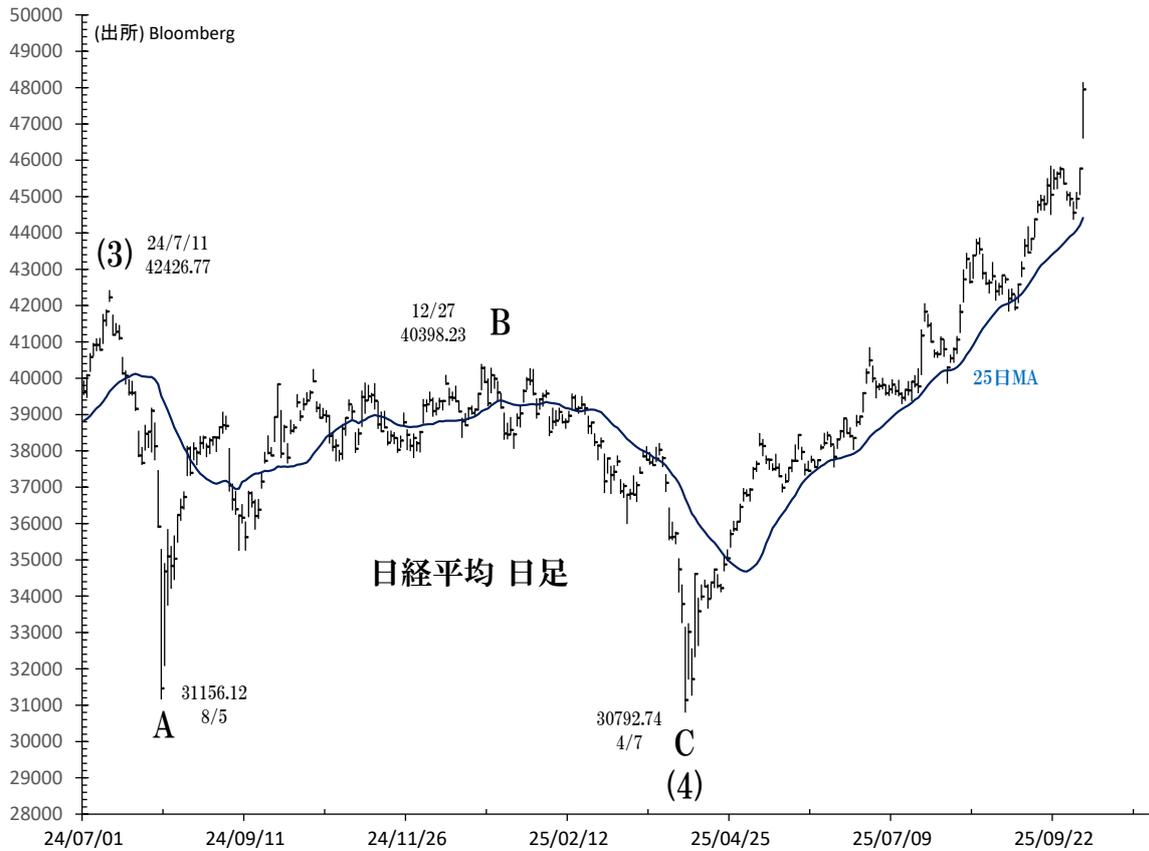


[TOPIX]

10月6日には一時3237まで上昇し最高値を更新しました。

フィボナッチ比率からの目標価格[3323]を、引き続き目指す可能性があります。

[3323]…20年3月安値から24年7月高値までの上昇幅、すなわち第(1)波～第(3)波のネット上昇幅と、25年4月からの第(5)波上昇幅が、「1:0.618」になる水準



[日経平均]

39,850 円(8/4 安値)以来、マイナー級・第 5 波の上昇が展開中です。

フィボナッチ比率などから得られる(マイナー級)第 5 波の目標価格は[48,568 円][48,896 円]
[48,964 円][49,074 円]などです。

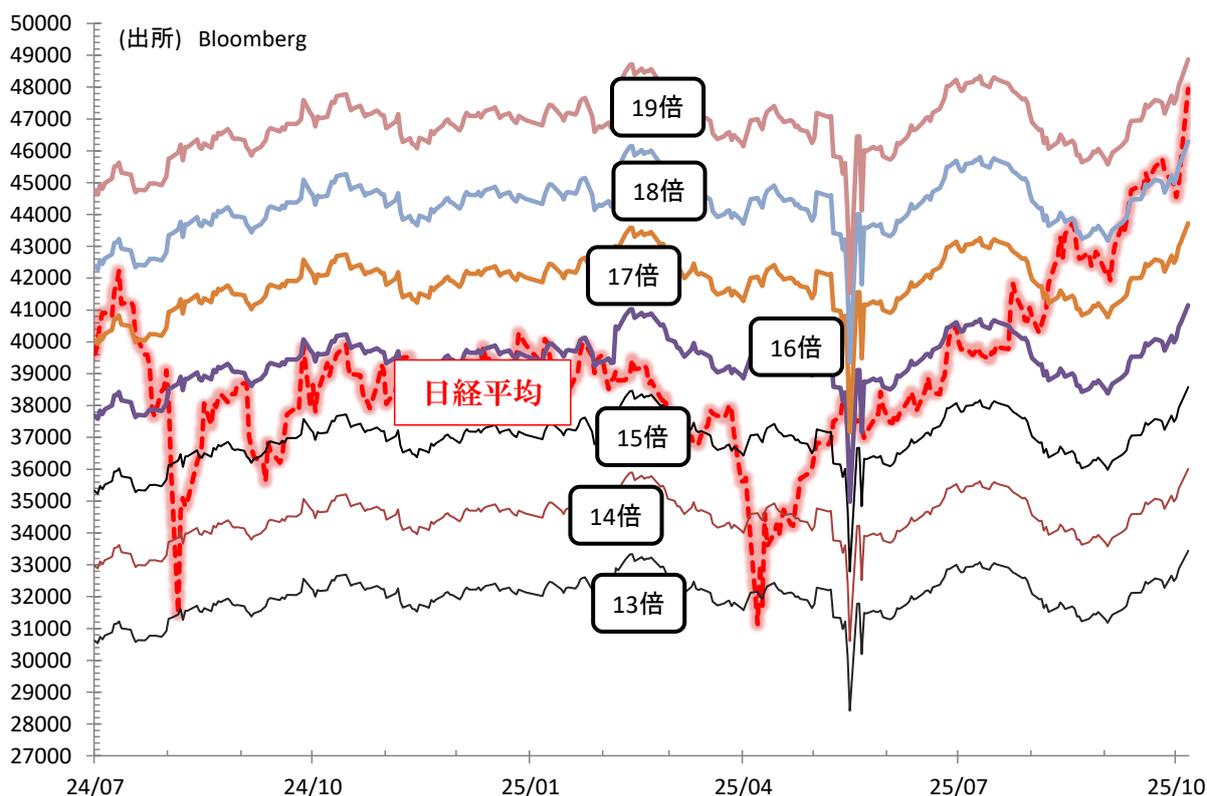
44,357 円(10/1 安値)からは、第 5 波中マル v 波による上昇が展開中です。

主要 AI 関連 3 銘柄(アドバンテスト、東京エレクトロン、ソフトバンク G)が日経平均をけん引する構図は 10 月 6 日も変わりませんでした。3 銘柄の寄与度(968 円)と、日経平均の上げ幅(2175 円高)の 44.5% を占めました。日経平均が③波天井を付けるまで、この構図に変化はないでしょう。

[予想 PER 別の日経平均水準]

10 月 6 日の日経平均予想 PER は 18.64 倍・予想 EPS は 2572 円。

予想 EPS は 2 月 13 日(2564 円)を上回り、過去最高となりました。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

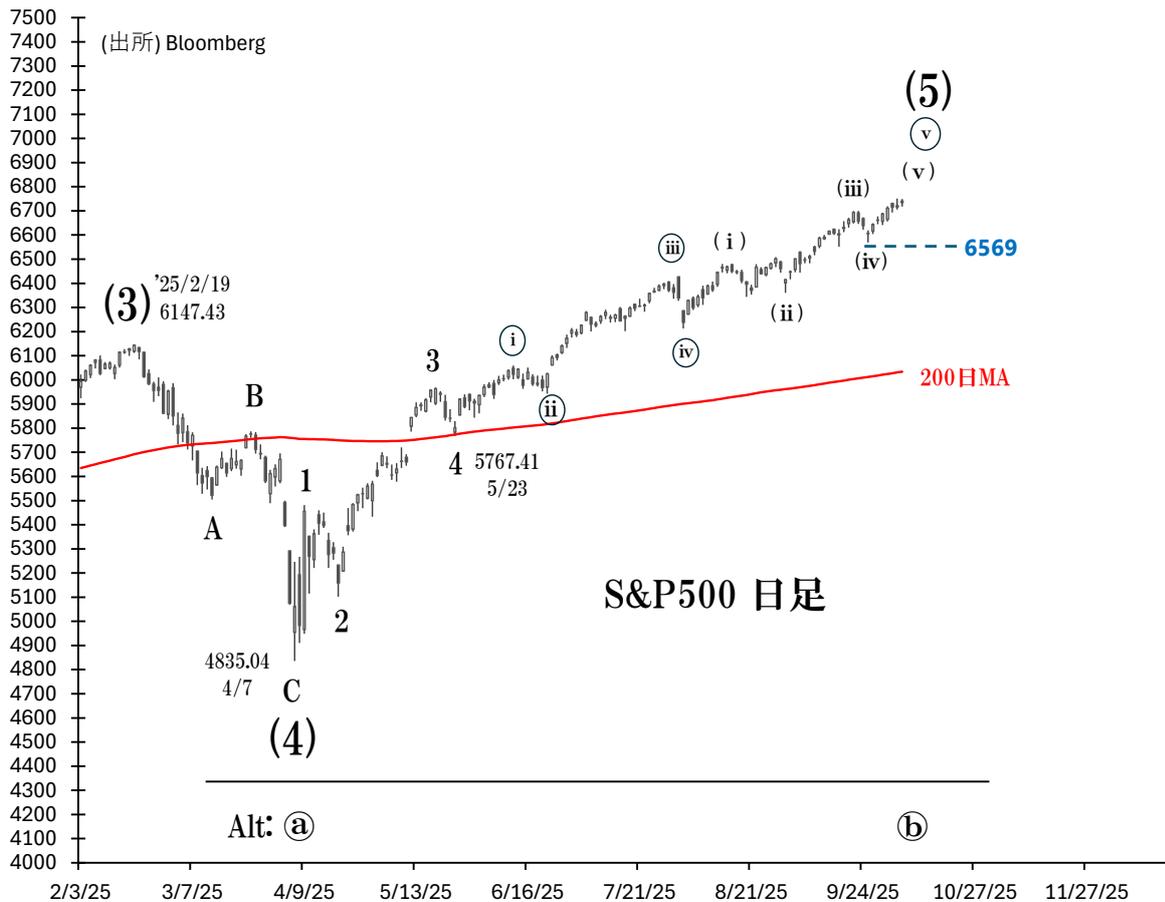
(プリファード・カウント)

22年10月安値(28,660ドル)からの上昇は、プライマリー級の第⑤波です。今年4月安値からの上昇はインターミディエイト級第(5)波に当たり、それを以て第⑤波は終了します。第⑤波完了後に訪れる弱気相場は、控えめにみても高値から20%安となるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4月からの上昇は「ランニング・トライアングル」における⑥波とカウントされます。このシナリオでは、近々訪れるであろう下げ局面でも4月安値(36,611ドル)は維持されるでしょう。その後1~2年程度のみみ合いが続いた後に、新たな高値へ向かう展開があるでしょう。

NYダウは10月3日に高値を更新、一時47,049ドルを付けました。この日のローソク足形状は長い上ヒゲを持つ「流星」となり、少なくとも目先の基調転換を暗示するものです。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

10月3日に一時6750まで上昇、最高値を更新しました。

今年5月安値(5767)からの上昇第5波は延長し、さらには、第5波中マルv波も延長を起こしていません(5th wave extension of 5th wave extension)。しかし、それも最終局面とみられます。

今後6569を終値で下回ると弱気トリガー、大きな調整入りが示唆されます。

【S&P500 長期エリオット波動分析】

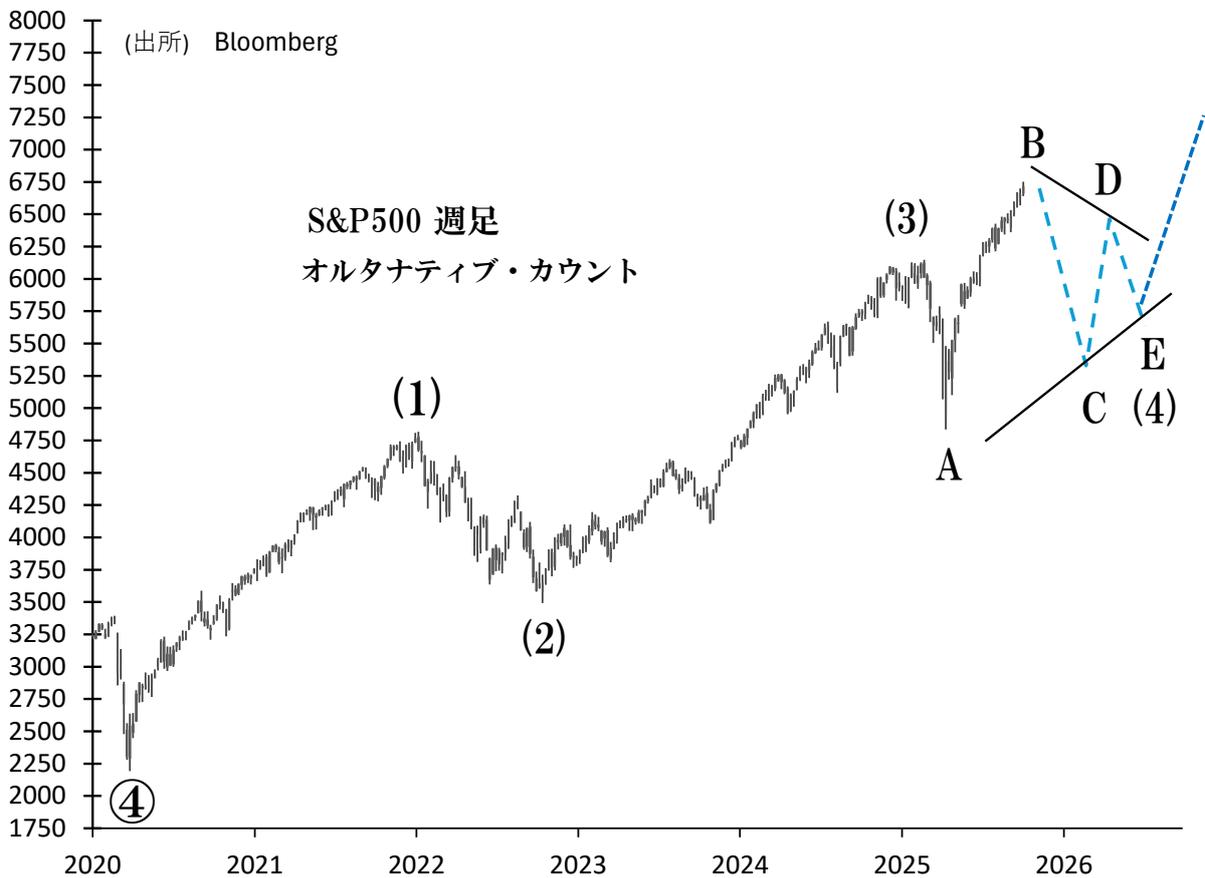
(プリファード・カウント)

4月安値(4835)からの上昇は、インターミディエイト級第5波に位置付けられ、それが終わると長期にわたる調整スタートとなります。それは4月安値を大きく下回ることが予想されます。

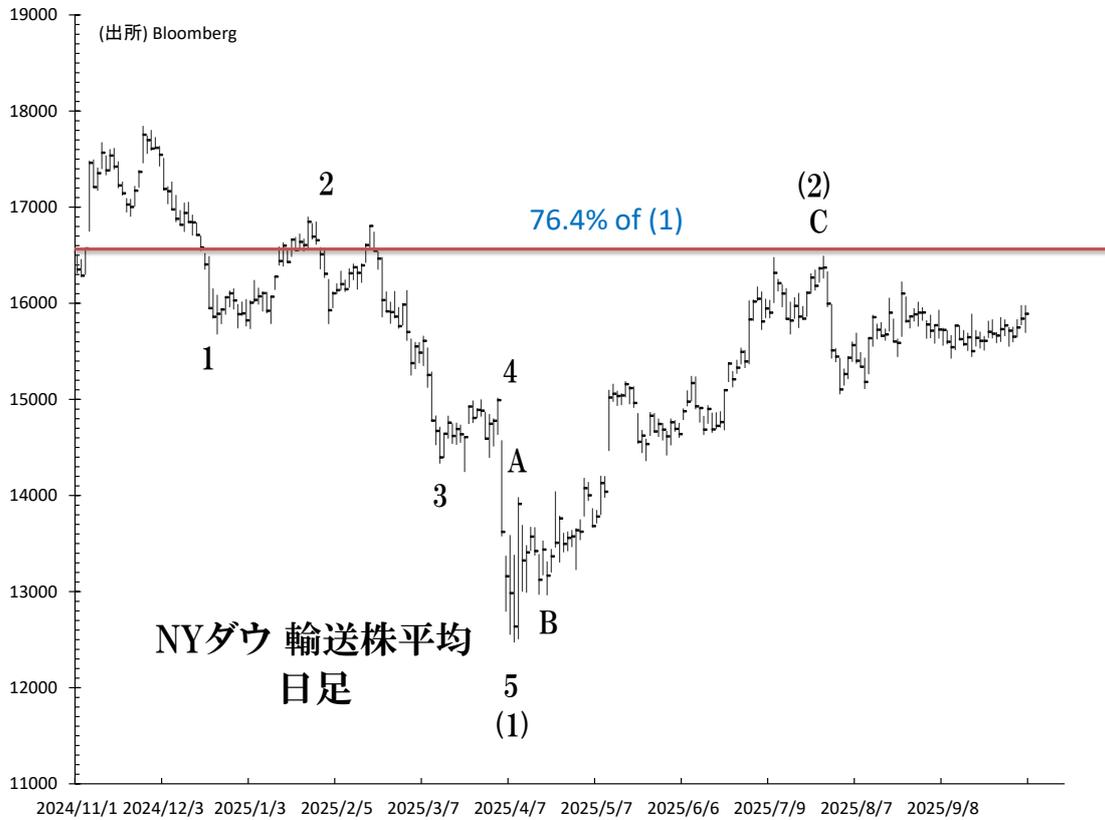
(オルタナティブ・カウント)

4月からの上昇は、トライアングル中⑥波のリバウンドに位置付けられます。

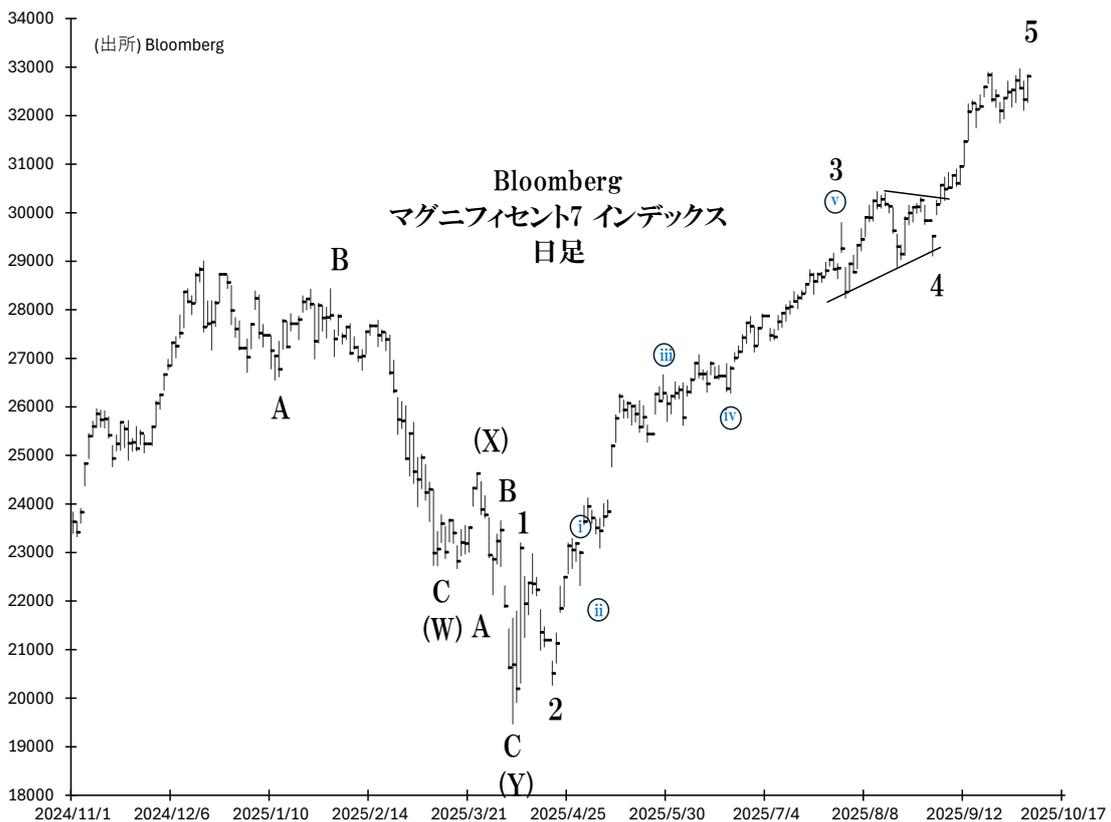
近々③波の下げがスタートし、それは②波(2月～4月)下げ幅に対し62%～66%の大きさ(813～866ポイント)になるでしょう。この③波によりS&P500は、5400を下回る展開になりそうです。



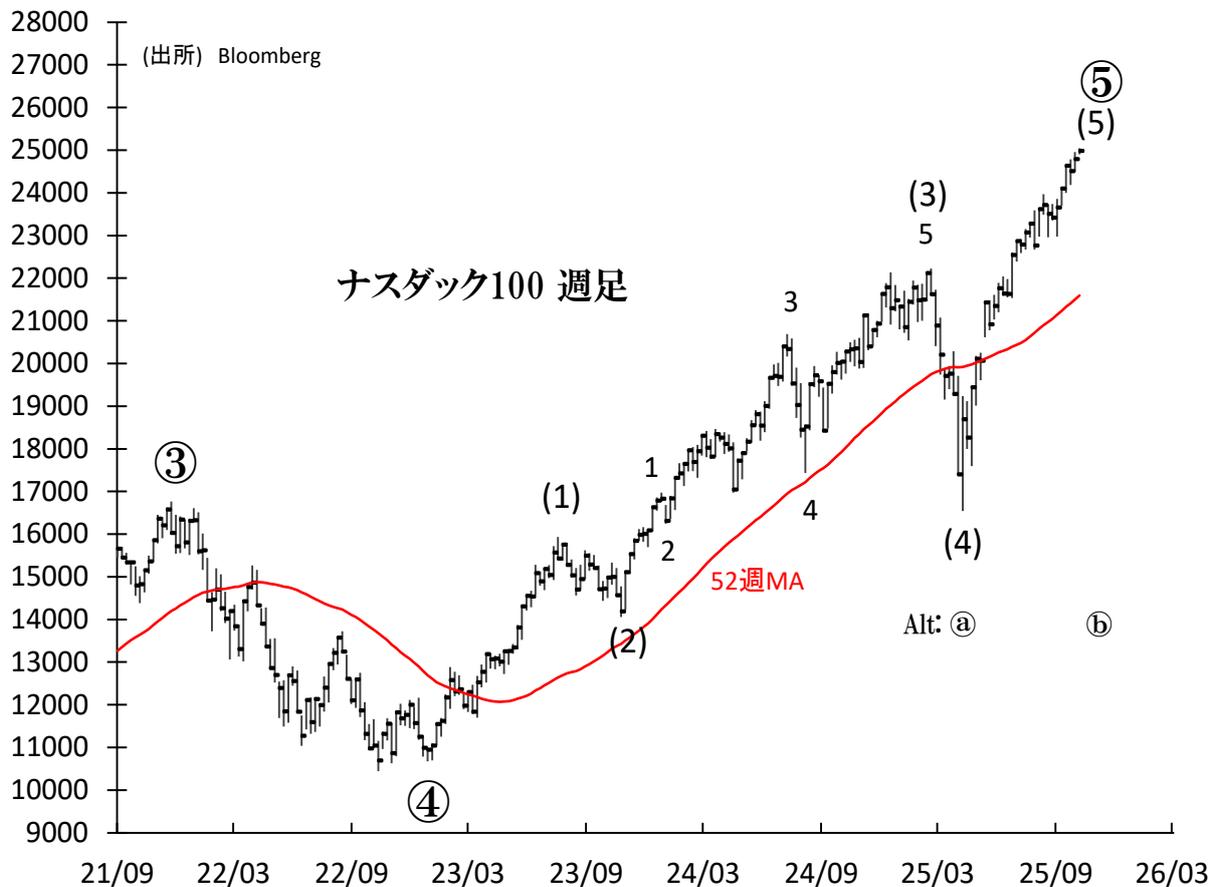
[ダウ輸送株平均] (直近で最高値を更新した)ダウ工業株平均と「未確認」続く



[マグニフィセント7] 4月から5波構成による上昇



ナスダック



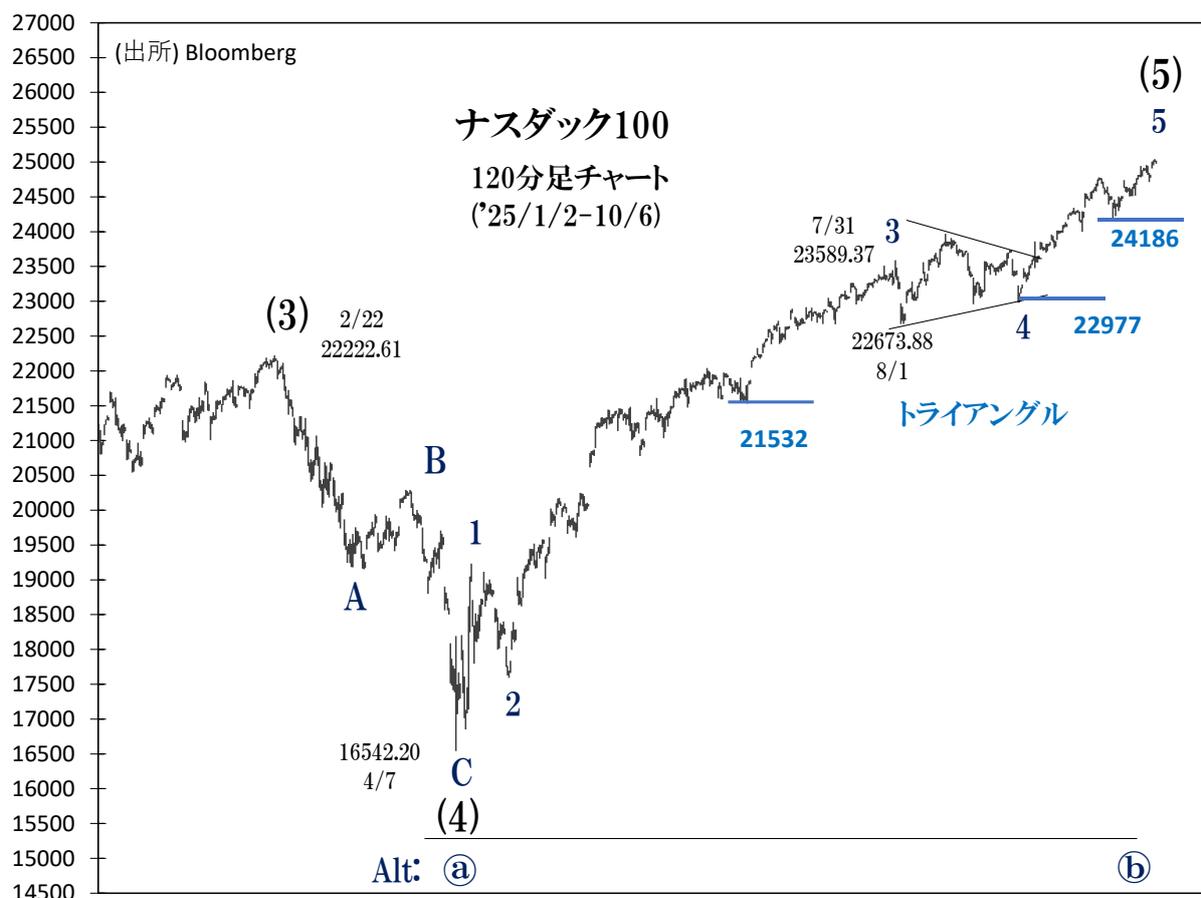
【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

(プリファード・カウント)

4 月安値(16,542)からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波の上昇に相当するとみられ、それはいつ終わってもおかしくありません。もう間もなく調整局面が始まるとみられ、それは数年間ターム続く、長く大きなものになるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「(ランニング)トライアングル」中 B 波に当たります。これは S&P500 のオルタナティブ・カウントと同様であり、遠からず C 波の下落に入る見通しです。これによると今後の調整規模は、想定されるシナリオではもっとも小さいと想定されます。それでも C 波の下げ幅は A 波のそれに対し 62%~66% となり、B 波の高値からは 3500~3750 ポイントの下げになるでしょう。4 月安値(16,542)からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波の上昇に相当します。第(5)波はいつ終わってもおかしくありません。もう間もなく調整局面が始まるとみられ、それは数年間ターム続く、長く大きなものになるでしょう。



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

4 月安値 16,542 からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波か、第(4)波「トライアングル」中**⑥**波とみられます。

22,977(9/2 安値)からの上昇はマイナー級の第 5 波に位置付けられます。

10 月 6 日には一時 25,044 と、初の 2 万 5000 台乗せをはたしました。

24,186(9/25 安値)を終値で下回ると、それは第 5 波終了の最初のシグナル点灯になるでしょう。

この場合、まずは 50 日 MA—5 月以降でサポートラインとなっている—を目指す可能性があります。今のところ 50 日 MA は 23,854 です(10/6 終値時点)。

米ドル/円

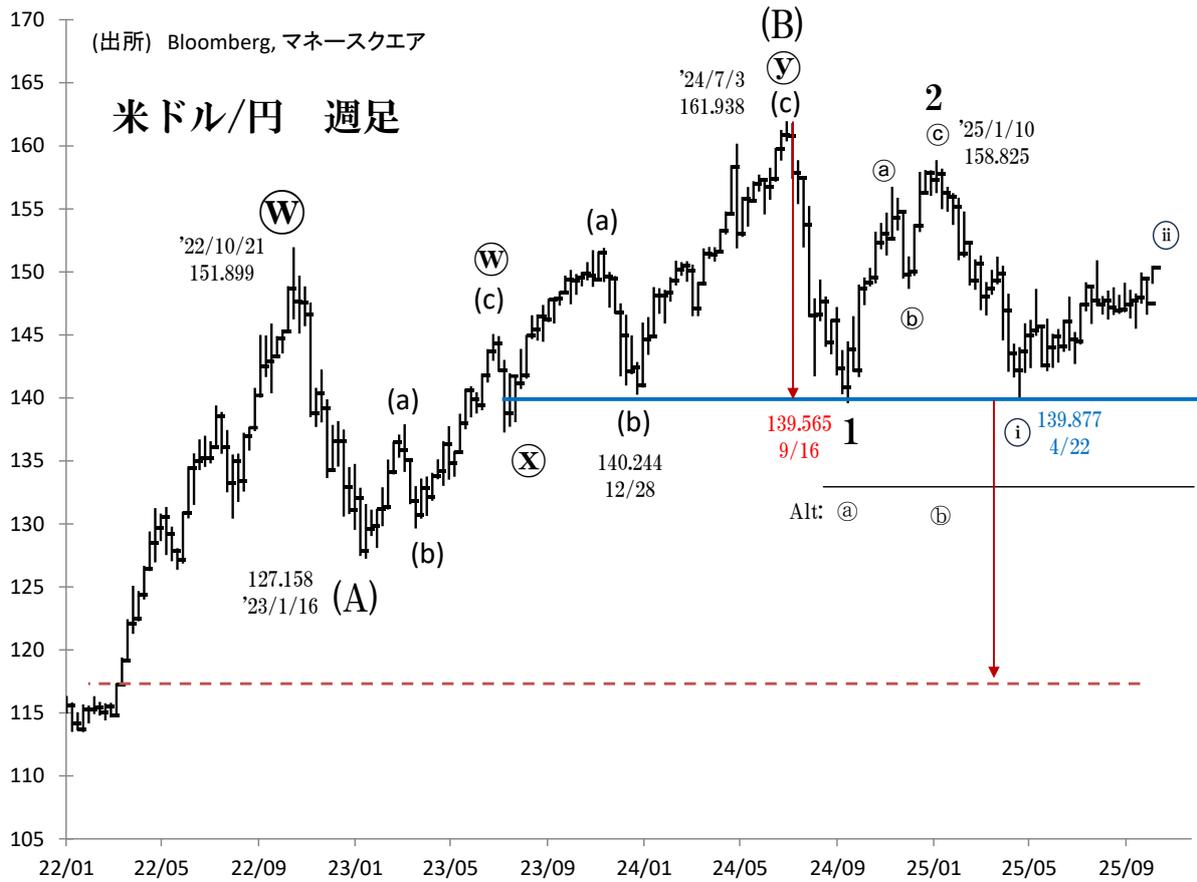


【月足・エリオット波動分析】

16年半サイクルによれば、米ドル/円(ドル/円)は2028年4月頃まで「円高の時間帯」が続きます。この時間帯においてドル/円の上値は抑えられるでしょう。筆者は28年4月頃までのどこかの時点で、1ドル=125円~120円へのドル安・円高になる可能性をみています。

年内のドル/円は、じり高の展開を予想しています。

しかし、おそらく26年前半にもドル/円は、139円処のネックラインを明確に割り込むでしょう。それをきっかけに、「サード・オブ・サード」の強いドル安・円高トレンドが鮮明になるでしょう。



【週足 エリオット波動分析】

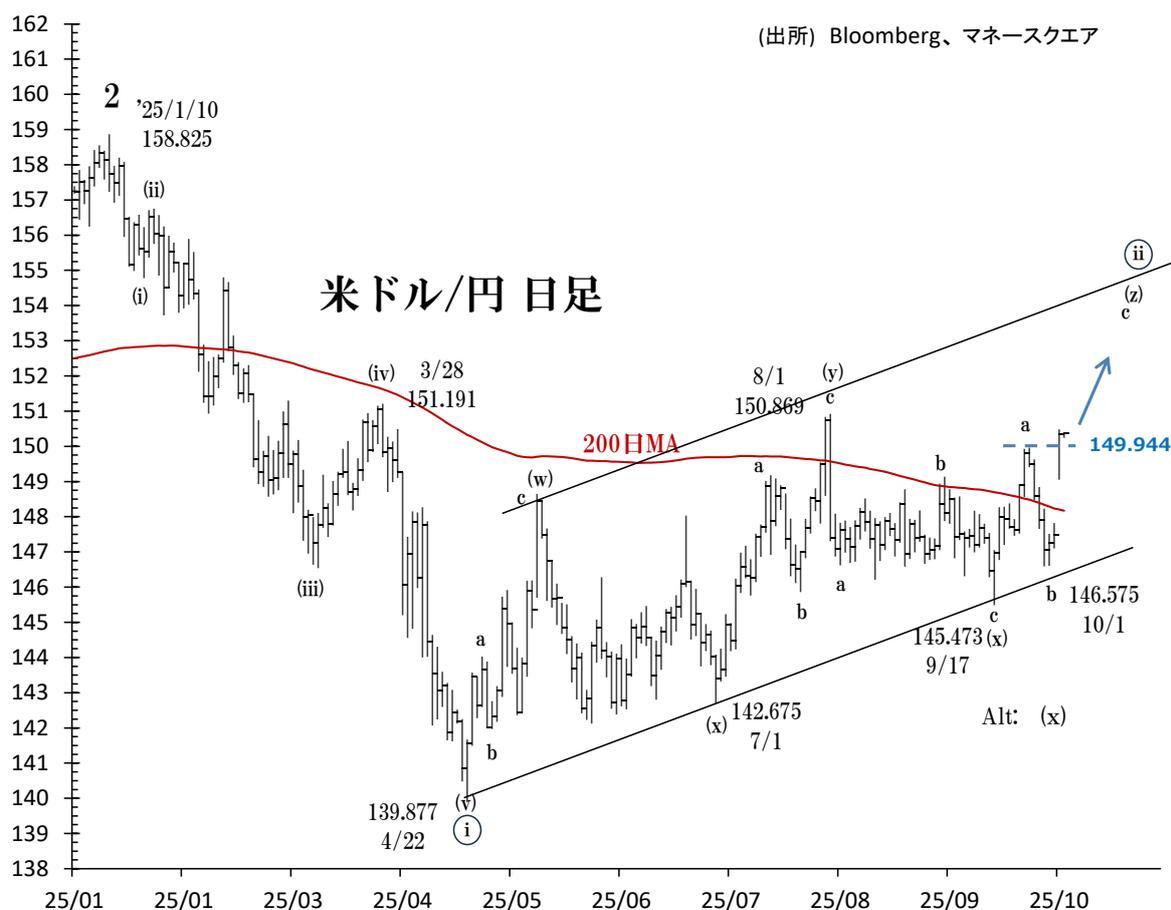
今年1月から、第3波によるドル安・円高が進行中。

第3波を構成する副次波のうち、139.877円(4/22)からはマルii波に相当します。

「高市トレード」を原動力に、引き続き1ドル=151円～154円を試す展開を予想します。

もっとも、マルii波完成後のマルiii波による下落(ドル安・円高)に徐々に備えが必要でしょう。

第1波と第3波が黄金分割(1:1.618)比率関係になると仮定すれば、[122.625円]という目標値が得られます。ヘッド・アンド・ショルダーズに基づく垂直目標値は1ドル=120円割れです。



(出所) Bloomberg、マネースクエア

米ドル/円 日足

【日足 エリオット波動分析】

4月からのマル ii 波によるドル高・円安は、「トリプル・ジグザグ(w)-(x)-(y)-(x)-(z)」で展開中です。
9月17日以来のドル/円上昇は(z)波に当たり、この(z)波は a-b-c 編成です。

146.575 円(10/1)からは、(z)-c 波が展開中とみられます。それは少なくとも[150.869 円](8/1)を上回るでしょう。

マル ii 波の上値目標は[151.586 円](1月からの円高の 61.8%戻り水準)や[154.353 円](同 76.4%戻り)などです。

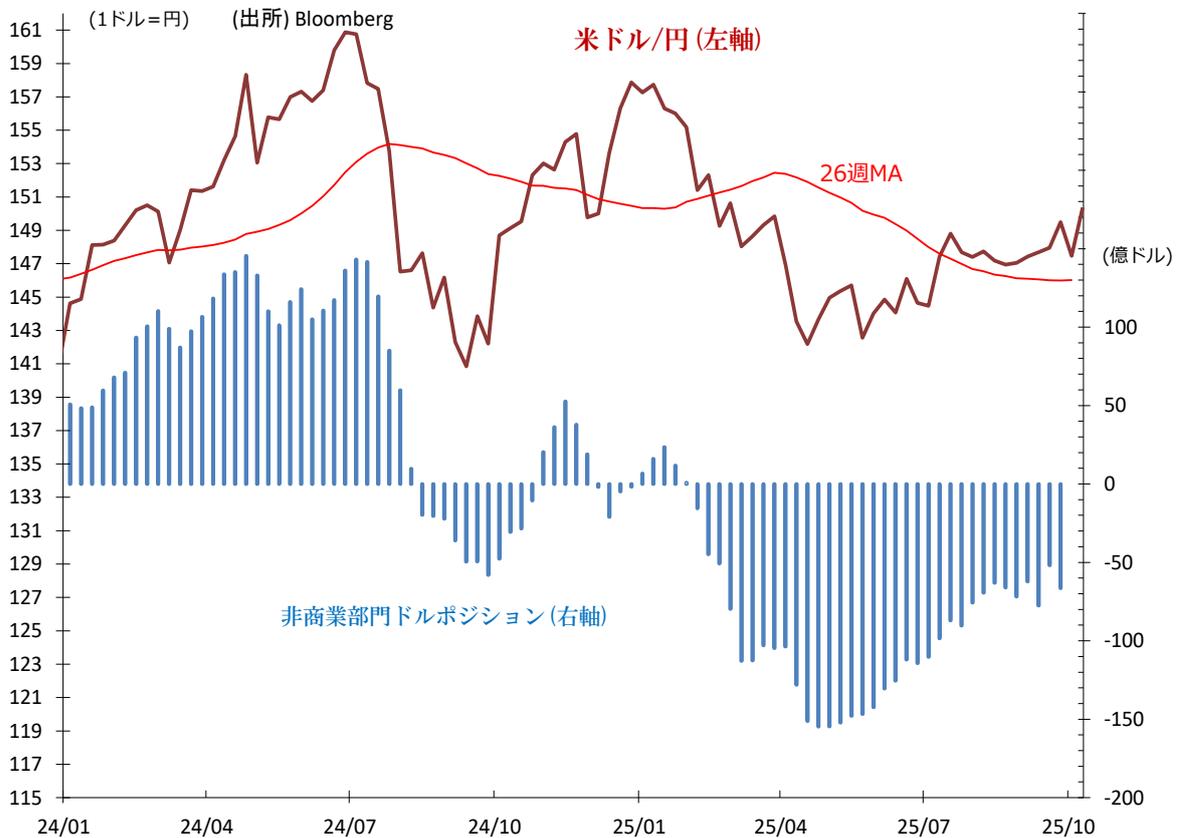
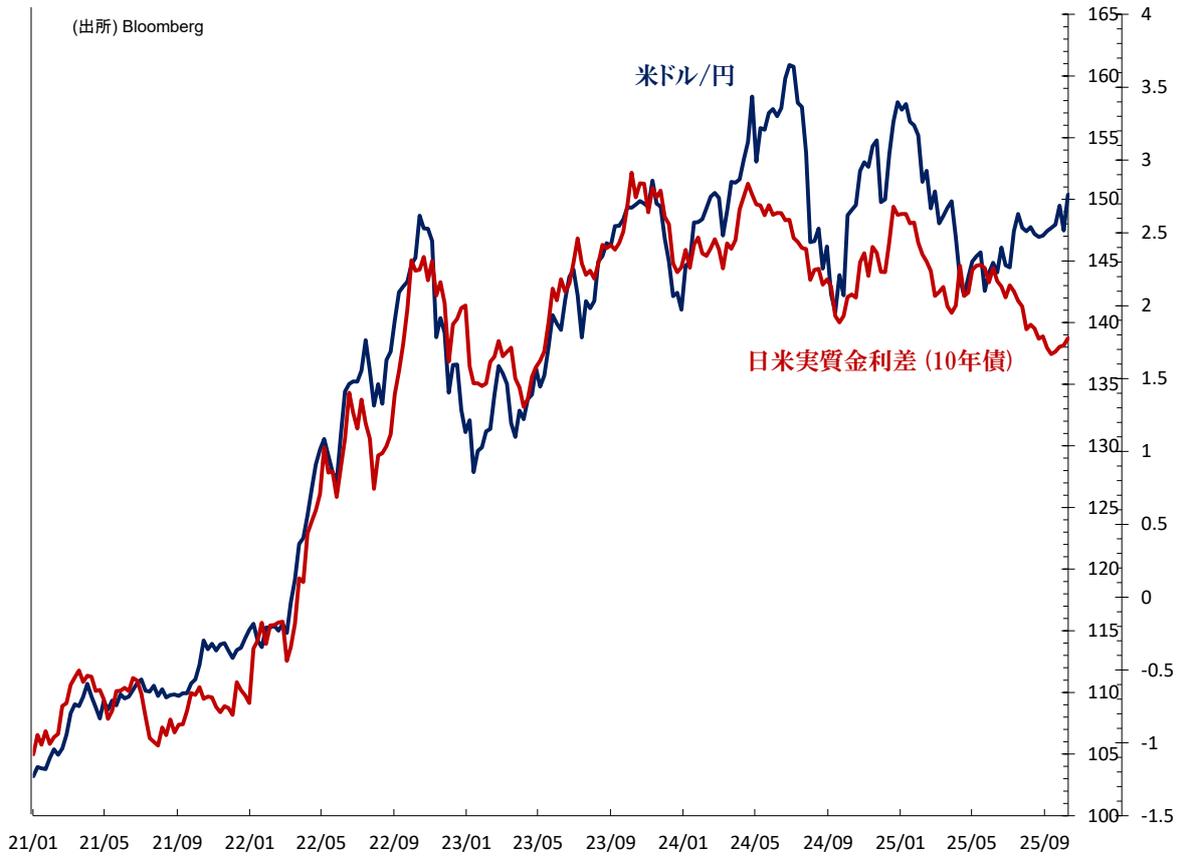
オルタナティブ・カウントは、150.869 円(8/1)からの(x)波「フラット」が 146.575 円(10/1)で完成し、足元は(z)-a 波が展開中、というものです。

金利差からのドル/円推計値

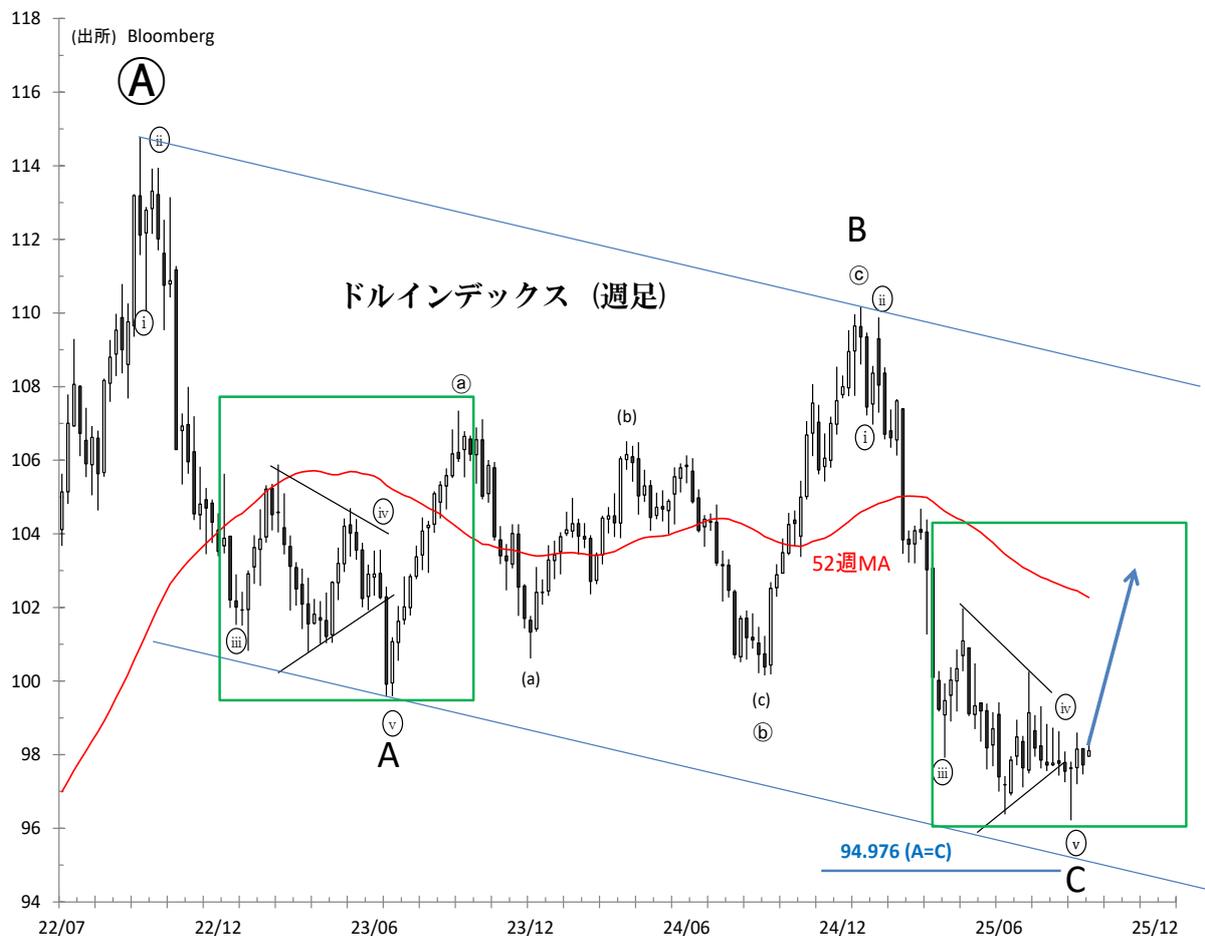
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[141.203 円]です。

投機筋の円買い持ち高が拡大(2025年9月23日時点)

IMM 通貨先物市場では、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高が前週の 51.9 億ドルから 66.47 億ドルへ拡大しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

週足チャートに口で示した箇所、A 波の最終局面(マル iv 波-マル v 波)と、C 波の最終局面は、互いに似ているようにみえます。このフラクタル性に着目すると、A 波完了後の持続的なドル高(当時は 23 年 7 月中旬～10 月上旬まで 12 週間のドル高でした)が、今回も繰り返されるでしょう。

96.218(9/17)を以て、22 年高値からのジグザグ(A-B-C)は終わった可能性があります。

そうであれば、当面は C 波のドル安に対する 38.2%戻り水準[101.550]を目指すでしょう。

なお A 波終了後にみられた持続的なドル高(ⓐ波)は、A 波のちょうど半分を戻しました。今回も同様なら、数カ月後には C 波の半値戻り水準[103.197]を目指すことでしょう。

もっとも長期的にはドル安(ⓑ波)基調は継続し、2026 年には一段とドル安が強まるでしょう。

筆者は、ドル安(ⓑ波)は短くとも 2028 年頃まで続くと考えています。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
